

てんじ かんしやう
展示を楽しむための鑑賞ガイド

しん らん じやう ど しん しゆう
親鸞さんと浄土真宗



しんらん
親鸞
(1173 ~ 1262)

国宝 親鸞聖人影像 (安城御影副本) 部分
(賛・裏書) 蓮如筆
室町時代 15世紀
京都 西本願寺
展示期間 3月25日~4月2日

じやう ど しんしゆう しんらん
浄土真宗をひらいた親鸞さんって
どんな人だったのかな？



京博公式キャラクター
トラりん

しんらん 親鸞さんってどんなひと？

平安時代

1185年

数え年

1173年 (1歳)

京都に生まれる。

1181年 (9歳)

出家して、比叡山に上り、修行する。



重要文化財
本願寺聖人伝絵
(康永本)
巻上本 部分
京都 東本願寺
展示期間
5月2日～5月21日

1201年 (29歳)

比叡山を下り、京都の六角堂（聖徳太子がひらいたと伝わるお寺）に100日間籠もって夢で観音からお告げを受ける。
法然の弟子になる。

「すべての人が等しく救われる」という阿弥陀仏の教えに出会う。
ただ「南無阿弥陀仏」と称えるだけで浄土に行くことができる、という教えを広める。

この考えを良く思わない人たちによって、批判を受ける。

1207年 (35歳)

罪人として、都から遠い越後（今の新潟県上越市）に送られる。

1211年 (39歳)

罪を許されるが、越後に留まる。

1214年 (42歳)

この頃から関東で教えを広める。



1224年 (52歳)

この頃、『教行信証』の執筆がほぼ完成するか。

1232年 (60歳)

この頃、京都へ戻るか。
多くの本や手紙を書く。

1256年 (84歳)

親鸞が去った関東で、親鸞の考えとは異なる教えが広まり始める。
収めるため、息子の善鸞を送り出す。
しかし、善鸞はさらに異なる教えを広めて混乱を招いたので、親子の縁を切る。

1262年 (90歳)

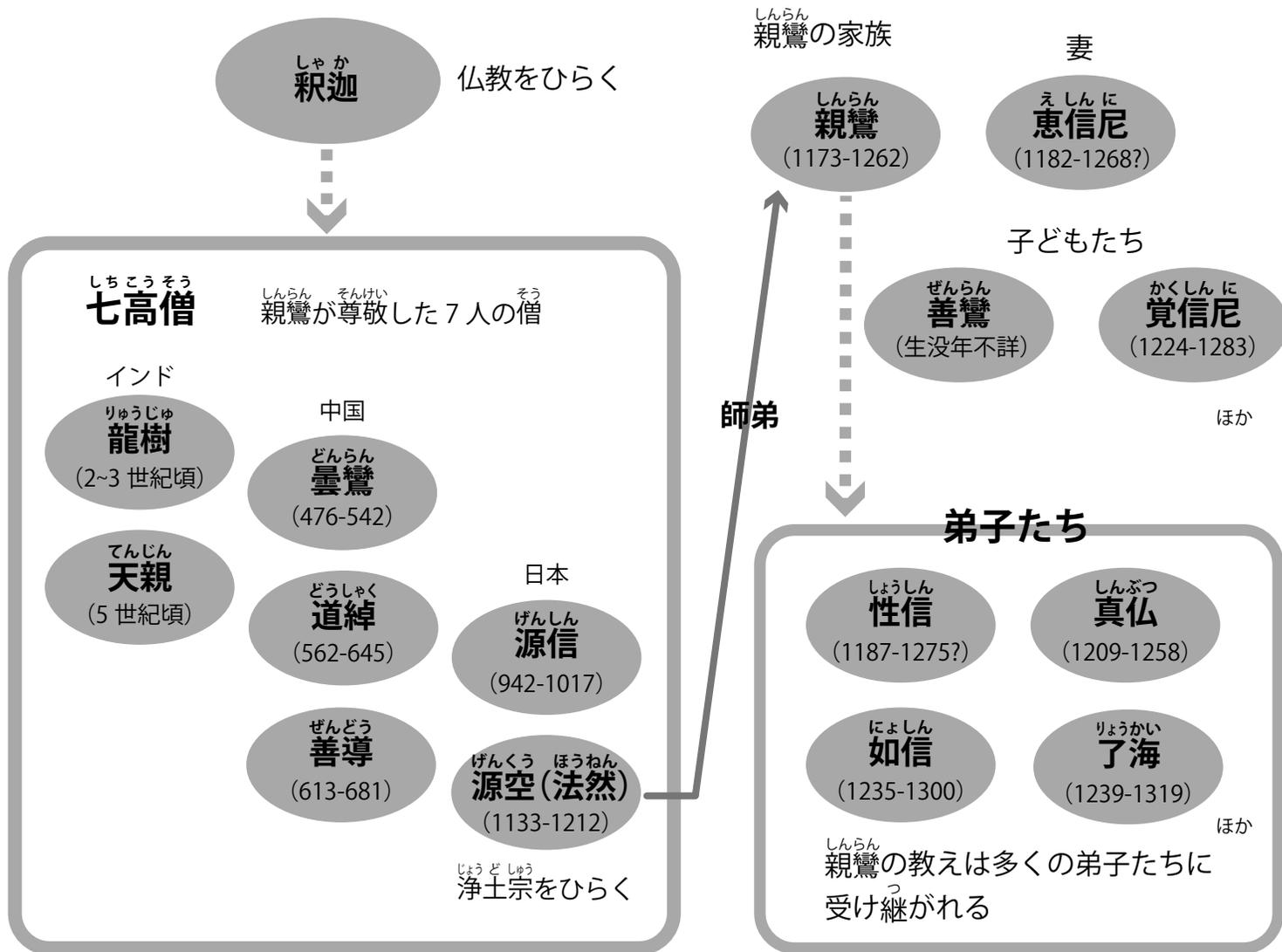
京都で亡くなる。

1272年

娘の覚信尼と弟子たちがお堂を建てる。
お堂はのちに本願寺というお寺に発展する。

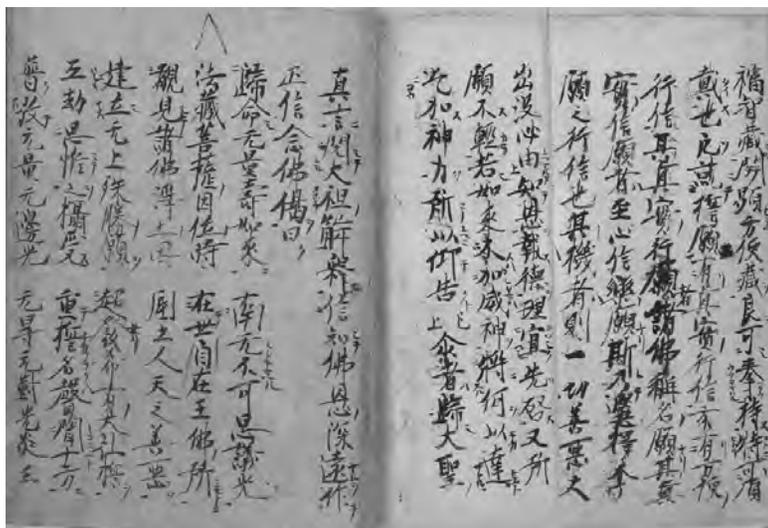
鎌倉時代

親鸞さんを取りまく人々



親鸞さんが書いた『教行信証』※

※正式名称は『顕浄土真実教行証文類』



親鸞が、自分の考えをまとめて著した本。「念仏を称えれば浄土に行くことができる」という「念仏往生」に関する内容です。お経や、中国の本など約 60冊から、重要な部分を集めて分類し、その意味を説明しています。

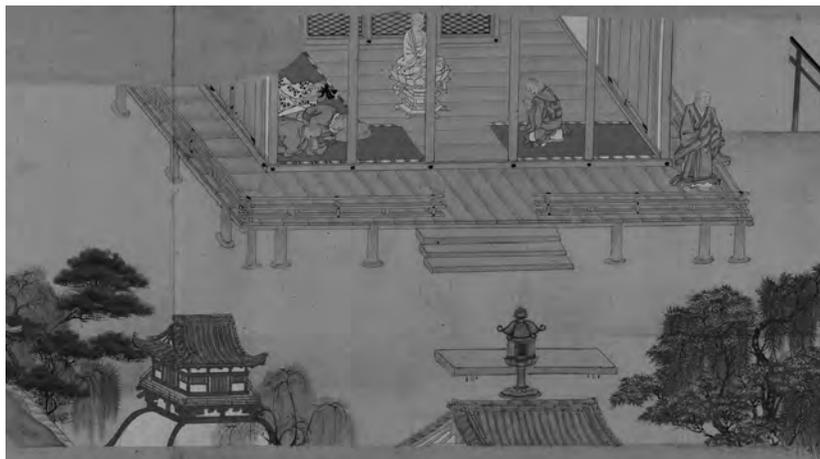
『教行信証』は弟子たちによって写され、受け継がれ、浄土真宗にとって最も大切な書物になりました。なかでもこの坂東本は、今残っている中でただ一つ、親鸞自身が書いたものです。あちこちに文章を直した跡があり、親鸞がずっと手元に置いて、何度も文章を練り直していたことが分かります。

国宝 教行信証 (坂東本)
親鸞筆
鎌倉時代 13 世紀
京都 東本願寺
展示期間
3月25日~5月21日
(冊替あり)

すみ 墨や朱で書いたり、先のとがった
細い棒 (角筆) で跡をつけたりして、
文章を直しているんだって!



親鸞さんの一生を描く絵巻物



重要文化財 本願寺聖人伝絵（康永本） 巻上本 部分
詞書：覚如筆 絵：康楽寺円寂筆
南北朝時代 康永2年（1343） 京都 東本願寺 展示期間 5月2日～5月21日

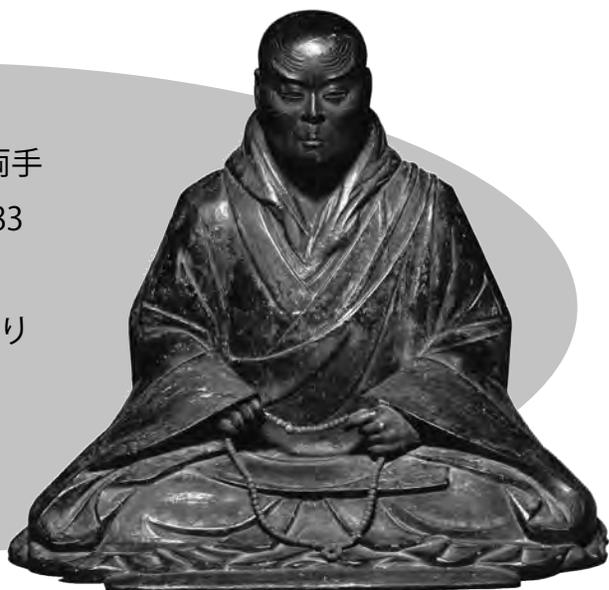
親鸞が亡くなって33年後に、ひ孫の覚如が親鸞の一生を描いた絵巻物を作りました。最初の本は戦で焼けてしまいましたが、その後にあらためて作られたのがこの絵巻（康永本）です。

この場面は、親鸞が六角堂に籠って修行しているところ。夢に観音さまが現れて、お告げを授けます。このお告げがきっかけで、親鸞は法然に弟子入りしたと言われています。

親鸞さん 83歳の姿

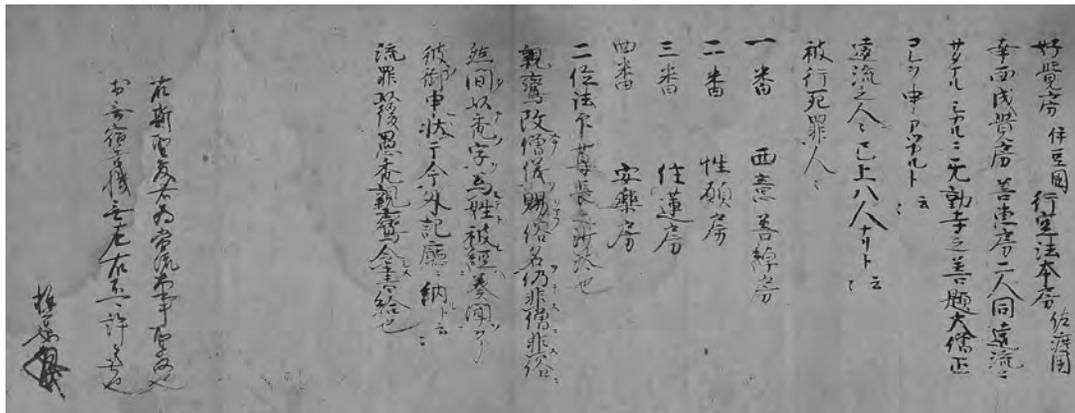
親鸞は首元に帽子（スカーフのようなもの）を巻き、両手で数珠を持っています。この姿は、西本願寺に伝わった83歳の時の肖像画などを元に作られたと考えられています。

高さ30cmほどの小さい像ですが、口をすぼめて眉を吊り上げた鋭い表情は、リアルで迫力があります。



親鸞聖人坐像
南北朝時代 14世紀
三重 専修寺
展示期間 3月25日～4月16日

親鸞さんのことば



重要文化財 歎異抄 巻下 部分
蓮如筆 2巻のうち1巻
室町時代 15世紀
京都 西本願寺
展示期間 3月25日～4月9日

この『歎異抄』には、親鸞が語った言葉と、その解説が書かれています。親鸞が亡くなった後に、親鸞の教えを間違っ理解する人が現われたので、それを正すために弟子が書きました。

たくさんの写本が作られましたが、この巻物は、今残っている中で一番古いものです。巻物のおわりには、他には見られない、親鸞が越後に行ったいきさつが記されています。